

2025年度

大学院入学試験問題

経済学研究科 博士課程

前期課程Ⅱ期

《研究者養成コース》

外国語

日本語

広島経済大学

〔試験日：2025年2月25日〕

以下の問題 1、問題 2 について解答しなさい。

問題 1. 次の文章は、横山広美「人工知能と社会（下）」を一部抜粋・改変したものである。これを読んで、後の設問に解答しなさい。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

(出所：横山広美(東京大学教授)「人工知能と社会(下)」「AI8原則」の順守を」日本経済新聞朝刊
2023年5月9日より一部抜粋・改変)

設問1. 文章中の下線部①～⑫の語句について、漢字は読みがなに、ひらがなは漢字に変え、それぞれの解答欄に記入しなさい。

設問2. 文章中の二重下線部⑬～⑰のカタカナ語と同義の語句を下の語句群から選んで、番号で解答欄に記入しなさい。

1. 世界標準
2. 技術改良
3. 下意上達
4. 倫理対処
5. 統治
6. 影響評価
7. 上意下達
8. 技術革新
9. 応用

設問3. 波線下線部(A)についての記述が正しくないものを1つ選んで、番号で解答欄に記入しなさい。

1. 多点・多目的に開発が進み、波及先も広く、汎用性が高いため、この先どうなるかという見通しが難しくなる。
2. 政府レベルで規制をかけなければ、生成AIに対するガバナンスが難しくなる。
3. 世界中の大人数の人々ほぼ同時に、かつ直接に経験ができ、日々の仕事や勉強に直接的にインパクトを受けてしまう。
4. 開発から公開までのスピードが速いから、すぐ利用できる利点がある。

設問4. 波線下線部(B)についての記述が正しいものを1つ選んで、番号で解答欄に記入しなさい。

1. 科学技術開発する際にかかった期間。
2. 科学技術が実際使用されるまでの猶予期間。
3. 科学技術が実際使用される期間。
4. 科学技術が世界に広まる期間。

設問5. 波線下線部(C)についての記述が正しいものを1つ選んで、番号で解答欄に記入しなさい。

1. こうした意見はまったく存在しなかった。
2. こうした意見は十分議論されてきた。
3. こうした意見はあってもないもののように軽視されてきた。
4. こうした意見は多く存在していた。

設問6. 「ビッグテックの責任」「予防原則の必要性」「監視制度の強化」の3つのキーワードを使って本文をまとめなさい。(400字程度)

問題 2. 問題文を読み、以下の問いに答えなさい

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

(出所：大庭三枝『経済教室 グローバルサウスの実体（下）』日本経済新聞朝刊2023年6月8日

より、一部改変)

設問1. 文章中の①～⑩に入る語句を、下の語群より選び、解答欄に記入しなさい。

語群

南北 ・ 経済 ・ 南南 ・ 技術革新 ・ 新興国 ・ ルール ・ 相互依存 ・ 多国籍 ・
先進 ・ 植民地 ・ 社会 ・ 文化 ・ 低開発 ・ 冷戦 ・ 自由化

設問2. 文章中の(A)に入る語句を、下の語群から選び、解答欄に記入しなさい。

語群

ASEAN ・ UN ・ BRICS ・ IMF ・ OECD

設問3. 文章中の(B)に入る国名を、解答欄に記入しなさい。

設問4. 文章中の(a)、(b)および(c)に入る語句を、解答欄に記入しなさい。

設問5. 波線下線部(C)のグローバル化とはどのようなことをいうのか、述べなさい。

設問6. なぜGSの存在感が増してきたのか、あなたの考えを述べなさい。